

# 南風原小学校

## 学校経営の基軸

南風原小学校

スローガン

志を高く掲げ  
力強く前進する  
南風原小学校

「志」とは夢・希望・目標であり、学校教育目標、学年・学級目標、児童一人一人にとっては、学期のめあてが、「志」であることとらえることができます。また、毎日の授業では、「学習のめあて」も「志」と、とらえられます。

「高く掲げる」とは、志に向かうための道すじであり、見通しをもつこと、計画をたてることです。

次に示す「学校経営の基軸」は、校長の学校経営方針（ビジョン）です。

教育目標を達成するための道すじ（高く掲げる）を示したもので、教職員一丸となって重点的に指導していく十項目です。

そして、「力強く前進する」ためにはチームワーク、連携が重要です。今年度も、チーム南風原として、保護者・地域の皆様と連携しながら、「志を高く掲げ、力強く前進する南風原小学校」をめざします。

### 本校の教育目標

- 自ら学ぶ子
- 思いやりのある子
- 明るく元気な子
- ねばり強くやりぬく子

### 学校経営の基軸（十項目）

#### 一、あいさつ運動の徹底



【説明】  
あいさつ運動を徹底する理由は、「気持ちの良いあいさつは、人間関係づくりの力を育てる基本である。」という考え方に立っています。

気持ちのよいあいさつとは、「気をつけて」、「相手の目を見て」おはようございますと言えることです。

校内でもお客さんや保護者の皆さんに会ったら、自分から進んで気持ちの良いあいさつができる子を育てたいと思います。

学校に立ち寄った際、子どもから気持ちのよいあいさつがありましたら、賞賛と励ましの言葉をお願いします。

#### 二、早寝・早起き・朝ごはんの習慣づけ

##### ◎保護者との連携を図る

##### 【説明】

・毎朝六時三十分頃に起きましょう。  
子供の睡眠時間について調べてみると、小学生では「九時間」は取る必要があると言われています。

また、学校の授業が始まる二時間前に起床することが「学習に対する脳の目覚め」には良いらしい。

したがって、夜九時三十分までに就寝し、朝六時三十分頃に起きることが理想です。

##### 【寝る時間のめやす】

- ・低学年（九時頃）
- ・中学年（九時三十分頃）
- ・高学年（十時頃）

睡眠は記憶を整理し、定着させ、大脳の情報処理能力を回復させる機能があり、脳は、睡眠でしか疲労回復ができないといわれています。

##### 【朝ごはん】

朝食には睡眠で低下した体温を上げ、脳や体を活性化させるウォームアップ効果があるそうです。朝食を抜くと、脳を栄養失調状態にしてしまうため、気持ちがいらいらしたり、集中力が欠けるといった影響が現れるといわれています。

#### 三、結果にこだわる 学力向上推進

##### 【説明】

学力は向上させてなんぼ、という結果にこだわるのが大切だと考えています。  
学校の教育活動は、主に各教科の指導

と学校行事等に大きく分けられますが、学校行事は「竹の節、竹林から考えること」（後述）にあるように過程を大切にしている教育活動です。

しかし、各教科の指導については、結果にこだわる教育活動だと考えています。授業で学ぶ内容が分かっているのか、分らないのかを大事にしたいのです。

教師は分ける授業づくりを工夫し補習指導を行ったり、また、子どもたちへは今日の学習の定着を図るために家庭学習を徹底したいと思います。

##### 《たく習ノートの活用》

家庭学習の時間の確保については、各家庭の協力が大切になりますので次の時間をめやすにして子どもたちを励ましてほしいと思います。

##### （家庭学習の時間のめやす）

- ・低学年（20分以上）
- ・中学年（40分以上）
- ・高学年（60分以上）

#### 四、形から入る学習指導 （生徒指導）

学習指導や生徒指導においては、先ず形から入る指導を大切にし、次に中味（内容）をしつかり教えていくことにします。

##### 【説明】

人間が行動するには、先ず、頭（心）で考え、次に言葉で表し、そして実行するという過程を踏みます。

「形」とは、外見に現れた姿、格好のことを意味します。ということとは、外見をみればその人の心構えがおおよそ分かります。ここでいう外見とは、学習に向かう姿勢や服装などを意味しています。

例えば、体育の時間に体育着を着ていない、算数や国語の時間に座る姿勢が崩れている、学習用具が揃っていないなどはその姿（外見）から学習に向かう気持ちがしっかり現れていないことにつながります。

学習に向かう姿勢や集団行動の仕方、あいさつの仕方、言葉づかいなど外見に現れる行動や態度からその人の心構えが伝わってくるからです。

「型より入りて、型より出ざる」

## 五、校内研修の充実

本校児童の実態や学校の課題を明確にし、よりよい改善を図るため、全教職員が共通の研究テーマを取り上げ、一年間を通して研究を深めていきます。

### 【説明】

本校は、落ち着いた学習環境の中で、全国学力状況調査や県到達度調査において、全国平均および県平均を越える学力を維持してきました。

しかしながら、学習の基本となる聴く姿勢や態度、論理的に思考し記述する問題に関して課題が残りしました。

そこで今年度は、これまでの研究成果を生かしながら、国語科の授業の中で、考えの形成（聞くこと）に重点をおいた指導を通して、論理的に思考し、判断し、豊かに表現できる子の育成に努めて行きます。

### （今年度の研究テーマ）

「国語科の「聞くこと」の指導による「聴解力」を育てる取組」

（考えの形成に重点をおいた指導を考へて）

## 六、良い学級、楽しい学級づくり

なぜ学級づくりは重要なのか。

### 【説明】

・学級は学校教育の基礎単位だから。

・学級は子供の学校生活の拠点だから。  
・学級は学習指導の単位集団だから。  
・学級は、教師と児童、児童相互の触れ合いの場だから。  
・学級は、学校と家庭の連絡結合の接点だから。

以上のことから、学校における学級の位置づけ、重要性は容易に理解できます。学校が立派である、ということは立派な学級がそろっているからであり、良い学級が育っていないところに学校教育の進展は望めないと考えるからです。



## 七、特別支援教育の充実

### 【説明】

心身に障がいを持つ児童は、その障がいを改善・克服していくために、普通教育をもとにしながら、個に応じた指導を保障しなければなりません。

本校では、それら児童の特別なニーズを把握し必要な教育支援を行い、一人一人の能力を最大限に伸ばし、自立や社会参加のための基盤を培うことをねらいとします。その具体的な取り組みとして、

- ① 個別の教育支援計画を作成します。
- ② 交流学習（協力学級）を重視します。
- ③ 教職員全員の支援体制を臨みます。
- ④ 特別支援教育保護者会を行います。

## 八、いじめがなく思いやりを見せる学校

### 【説明】

保護者が安心して子どもを行かせる学

校は、いじめがない学校です。そこから信頼される学校は始まるのだと考えています。

同時にまた、本校では全ての職員が「いじめは、どの学校・どの学級でも起こりうるものである」という基本認識にたち、全校児童が「いじめのない、明るく楽しい学校生活」を送ることができるよう、日頃から子ども達の遊びや遊び方、遊ぶ場所を観察し、安全指導と併せて、いじめについても常に気を配っていきます。

いじめとは、「当該児童が、一定の間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの」とする。個々の行為が「いじめ」に当たるか否かの判断は、表面的・形式的に行うことなく、いじめられた児童の立場に立つて行うものとする。  
（南風原小学校いじめ防止基本方針）

## 九、キャリア教育の充実

### 【説明】

キャリア教育とは、一人一人の社会的・職業的自立に向けて、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育です。

小学校は、低学年、中学年、高学年と成長が著しく、社会的・職業的自立の基盤を形成する重要な時期です。遊びや家での手伝い、学校での係活動、清掃活動、児童委員会活動、勤労生産的活動、地域での活動の中で、自分の役割を果たす意欲や経験が重要です。

小学校におけるキャリア発達課題をふまえて、教育活動の中で、計画的に指導していきます。

- 低学年
- ① 小学校生活への適応
  - ② 身の回りの出来事への関心
  - ③ 好きなことを見つけて活動

- 中学年
- ① 友達と協力して活動
  - ② 持ち味を發揮し役割を果たす
- 高学年
- ① 自分の役割や責任を果たす喜び
  - ② 集団の中で自分を生かす

## 十、竹の節、竹林から考えること

### 【説明】

竹は台風のような強風でも、雪の重さにもしなやかに並び、途中からポキリと折れたりすることはありません。

何故、竹はそのように強いのでしょうか。それは、竹には「節」があるからだと思えます。

教育活動にたとえると、学校行事がその竹の節にあたるのではないかと考えています。

一年を通して学校行事をみると、始業式・終業式の学期毎の区切り、その他には運動会や学習発表会などの大きな学校行事があります。

特に、運動会や学習発表会等では楽しいことも多いですが、苦しいことやつらいこと、努力しなければならぬことも多いと思えます。このような学校行事を通して味わう色々な思い（体験）は竹の節にたとえることができるのではないのでしょうか。

子ども達がどんなときにも苦しみを乗り越えていくこの体験が多いほど竹のようになくまじい節を作り、しなやかな人間に成長していくと思えます。

南風原小学校で学ぶ子どもたちには、どんな困難なことに直面しても自分で考え、正しく判断し、意欲的に行動できる人間に育ってほしいと願っています。

